

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796500011		
法人名	株式会社 カームネスライフ		
事業所名	ここから堺たんぼぼ村 (1ユニット)		
所在地	大阪府堺市北区中村町198番地の1		
自己評価作成日	平成27年5月22日	評価結果市町村受理日	平成27年7月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ナルク 福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年6月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが日常生活を安心して暮らせるように支援している。筋力低下防止に力を入れている。近くの公園へ出かけるなど日々の散歩を日課に挙げている。また地域とも交流も積極的にしている。隣接する小学校との交流も定期的に行っている。大泉緑地公園の散歩はボランティアに率先して協力してもらい利用者には好評である。施設内でも絵手紙、折り紙、フラダンス、ハンドマッサージ等、ボランティアの力をお借りして定期的実施している。書道はご家族が週1度、協力していただいているおかげで利用者様の上達がレベルアップしている。日々の様子はたんぼぼ通信で毎月新聞を発行し、面会時には職員が近況報告をしている。開設当時から利用者様もおられADL低下や重度化してきている方はご家族と蜜に話しをする機会を設けご家族様の意向を聞いたうえで対応にあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営法人の(株)カームネスライフは、介護保険制度が始まって間もなく、高齢者が住みなれた地域で当たり前の生活を続けるには、グループホーム、小規模多機能ホーム等でなければ、地域密着型に特化して高齢者福祉に参入した。京阪神を中心に22施設を展開しているが、当事業所はその内の一つで平成18年12月に設立した。「ここからグループ」の「ここから」は、健全なところからだを意味している。利用者一人ひとりの担当はフリーの職員もいるが、3ヶ月間は固定して介護に当たっている。イベントの担当者もいて、外食、花見等を提案している。ボランティアも積極的に活用している。ナルク等ボランティア団体の他、利用者の家族が書道教室を主宰しているのも目を惹く。散歩を日課として体力を維持するとともに、職員に看護師を配置して健康チェックも入念に行い健康を担保している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を積極的にをモットーに・家庭的な雰囲気・穏やかな生活・いつも笑顔を理念に挙げ朝礼時に職員全員で提唱している。	事業所独自の理念を作りあげ、利用者・家族等全員が確認出来るように、事務所だけでなく各フロアに掲示している。 そして、毎日の朝礼やミーティングで確認をしながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夏祭りでは子供だんじりを駐車場で披露して貰っている。その際、子供たちに用意している駄菓子を利用者から一人ひとりに直接渡してもらっている。定期的に隣接する小学校との交流も図っている	自治会に加入し地域の行事に参加するだけでなく、職員が地域の民生委員を引き受けて、介護の相談にのるなど、地域貢献を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	周りが工場が多いため、地域との交流が取れにくい面があるが、夏祭りや日課としている散歩の中で、交流を図るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月後との推進会議で近況報告をし、ご家族の意見を聞き、反映できるよう努力している。	利用者、家族、自治会代表、地域包括支援センター職員、民生委員、事業所職員等が参加し2ヶ月に1度開催し、状況報告だけでなく話し合いを行い、提案された意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護系へは必要な経過報告はしている。北区グループホーム連絡会等で実施する排泄介助講習、認知症についての講習を受けている。	グループホーム連絡会等で指導を受けるだけでなく、都度訪問しながら、実情や取り組みについて積極的に報告、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては防犯上の問題もあり施錠に関してはご家族の了承は得ている。身体拘束はしていない。	交通の頻繁な道路に面しているため、玄関は職員の目の行き届く時間帯においてのみ開放している。全ての職員は、定期的な研修会を通して身体拘束が与える身体的精神的苦痛を十分理解し拘束のないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての冊子を職員間で周知してもらうためいつでも読めるところにおいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、権利擁護の必要な方が居られたので学んだ事がある。今後の為にも勉強はしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結、解約時には双方ともに、時間をとり、納得のいくまで話し合い、解決に向けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	実践している。	運営推進会議や家族会、家族の訪問時などあらゆる機会を利用して、介助に対する要望や意見を聞き出し、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はほとんど顔を出さない。月1回の職員会議で意見は聴いている。	事業所の運営方法について、職員からは、平素の業務の中から、また毎月の職員会議の中から職員間の悩み事やシフトの事など意見要望を聞き出し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎週、本部での報告会議がありその席で報告している。整備等に不備があった場合、早急に対処してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や外部研修への参加を積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区のグループホーム連絡会やネットワーク会義及び、市主催の勉強会には積極的に参加し、同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の了解を得て体験入所のシステムをとっている。いきなりの入所ではなく、1週間ほど、体験していただく事でご本人が馴染めるよう配慮し、職員も性格や入所前の生活を理解するよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは密に連絡を取っている。要望等あれば職員全体で取り組む努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態を見極め、認知の進行をできる限りおさえられるように、自分で出来る事は自分でしてもらいながら必要に応じて介助もする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所前の環境を理解し、個々に応じ家事を共にしたり、日課の散歩・買い物に出かける、テレビも一緒に見て笑ったり、歌ったりしている。。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	レクリエーションの時に書いた絵手紙等、家族に送付し、個々の近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若い頃の写真を一緒に見たり、働いていた頃・子育ての話など聴くなど心掛けている。	利用者本人と地域社会との継続を維持していくために、馴染みの人や場所への訪問を家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で、淋しい時はなぐさめ合い、時には一緒にカラオケで歌う、トイレの場所を教えたり、食事の時間を伝えに行ったりされる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の連絡はとっていないが亡くなったとの報告はうけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望、不満を聞いた時には、職員が記録に残している。困難な場合、家族と相談しながら本人の意向に沿うよう努力はしている。	利用者本人が何処でどのように暮らしたいか、一人ひとりの希望や意向は毎日の関わりの中で聞き出し、家族の協力を得ながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、生活歴や嗜好等の把握に努めている。また、日々の暮らしの中でご本人から昔の話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分で出来ることはしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員に居室担当をつけそれぞれに介護計画をたててもらい、それを元に全員で意見交換及び介護計画をたてて実践している。	介護計画の期間は一応長期を6ヶ月、短期を3ヶ月としているが、アセスメントと月々のモニタリングを繰り返しながら、変化が起きた時にはその都度、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は些細なことでも記録に残している。それを元に問題解決や介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の付き添い、送迎の支援を行っているが、家族の協力が得られない方が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣小学校の行事の見学や公民館を無料でお借りしボランティアによる演芸大会を開催することもある。利用者と共にコーヒーを飲みに行く事がある。利湯者の状態を把握して協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回かかりつけ医の往診があり、体調の変化に応じ看護師に報告、受診をしている。	受診は本人や家族等との話し合いの上、法人の協力医療機関をかかりつけ医としているが、内科以外の受診も家族の協力を得ながら支援するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の排泄状況から食事・水分摂取量等記録し、看護師に報告する。便秘や下痢の処置も、その都度対処してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や看護師が入院中の状態を適宜職員に報告している。退院後の介助の仕方の指導もしっかり行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	歩行困難や自己にて排泄が不可能になった利用者には電動ベッドを利用し、オムツ交換・体位交換をしやすくする。かかりつけ医の紹介で大きな病院での受診・入院が可能になるよう連携がとれている。	重度化した場合の終末期ケアの在り方について、事業所としての指針を定め、対応しうる最大の支援方法を本人や家族等と共有し、意向を確認しながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、意識確認・バイタルチェック等を行い、職員・看護師等の判断で救急搬送する。 急変時マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの元、定期的に避難訓練を行っている。当施設の真向かいに公民館や、地主さんがおり避難協力の要請をしている。災害時用の備蓄用品を設置している。	災害時における避難訓練や消防訓練を、夜間想定も含めて、年2回消防署指導のもと行っている。しかし、地域の方に協力依頼はしているが、役割分担等や共に訓練するところまでには至っていない。防寒具を含めた備蓄・備品は万全である。	地域の方々に夜間対応として、避難している利用者の見守りを依頼するなど、具体的な協力を得ながらの避難訓練をされる事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室で、家族面会時等家族と居室で過ごす。居室に引きこもらないよう気配りしながらも、個々の生活を見守る。オムツ交換・トイレ使用等も他人の目に触れないですむ環境になっている。	食事介助やトイレ誘導などにおいて、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応が見られた。個人情報も事務所の書庫に施錠して保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や外気浴に出る機会を増やす行事への参加状態・食べ物の嗜好・排泄のサイン等把握していき、職員間で気付くよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけは必ずするが、本人の意思にまかせて、レク等も参加してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問美容を実施、利用者自身に長さや髪型を決めてもらっている。居室に鏡やブラシを置き整容してもらう。外出時、口紅をつけて気分転換を図っている(女性の場合)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門担当を雇っている。利用者と共にテーブルに着き食事を取っている。洗い物・テーブル拭き等出来る事は一緒にしている。	担当の調理師がいて、食材業者の食材を事業所の厨房で調理して提供しているが、時には利用者に食べたい献立を聞きながら、買い物に行き、共に調理し、共に楽しく食事や後片づけをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録し好みの味付けや食べ物もほぼ把握している。歯の状態により固さを変えている。体重の増減もグラフをつけ食事量を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア促し、自己にて出来ない利用者には職員が介助する。歯科往診による口腔ケアも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインをつかみトイレ誘導を行う。できるだけ時間を決めてトイレ誘導し、トイレで排泄するよう心掛けている。	職員は一覧表等を参考にしながら、利用者の排泄パターンやサインを把握して、あからさまな誘導ではなく、さりげなく誘導をし、一人ひとりに合った希望に添った支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜は温野菜で提供し、多く摂取できるようにする。おやつに、バナナやさつまいも等繊維の多いものを提供し、また適度な運動をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員と1対1で入浴、浴室内・湯の温度の調整を個々に合わせている。曜日は決まっているが午前・午後の入浴希望を取りいれている。	入浴の曜日は、月水金、火木土と週三回で、ある程度決められているが、入浴時間は利用者の希望に合わせた入浴が楽しめるよう個々に添った支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	椅子で傾眠し始めたら、ベッド臥床促し、短時間の昼寝をしてもらう。夜間、寒がりの方にはエアコンで温度調節、好きなパジャマを着用されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬袋の記名を複数の職員で確認し、服薬してもらい誤薬を防ぐ、看護師在中の時は看護師に服薬してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒーやたばこ等体に影響のない程度に提供、カラオケや散歩で日々の変化をつけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園に徒歩で行ったり、車で少し離れた公園に行ったり、ドライブだけを好む方には、ドライブに連れて行く。	利用者一人ひとりのその日の希望に添って、事業所周辺を散歩したり、買い物に出掛けたりするほか、大泉公園へボランティアの協力を得ながら外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1ヶ月に使う金額(家族の希望)を決め、好きなおやつ等を買われる。買物時には職員と出かけ、精算のときにはご本人にしてもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を事務所で充電・預りし、本人の希望時にかけて話をさせていただき、家族からの電話もとりつき、居室でゆっくり話してもらっている。。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、季節ごとに壁面飾りをし、季節感を味わう、遮音・遮光には常に配慮し、ロールカーテン等で重苦しくならないようにしている。	明るいきりびんぐルームでは利用者それぞれがテレビを見たり、仲間同士が話し合ったりしてくつろいでいる。壁には利用者と職員で作った季節の展示、6月は紫陽花があるなど、生活感に溢れ居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大型テレビの前にゆったりとしたソファを設置、席を譲り合ったりしながら仲良く過ごされている。食卓テーブルで新聞を読む方・おはじきをする方など、それぞれの過ごし方をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には居宅で使用していた椅子やテーブル・タンス・仏壇等も置いている、花や植物を集め育てている。タンスの中身もわかりやすく表記している。	利用者は使い慣れた家具、調度品、家族の写真を飾ったり、馴染みの物を持ち込んで居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札付近に色違いで折り紙の花をつけて、わかりやすくする。 トイレのドアに大きくトイレ表示・ドアの開け方も示す。浴室ドアには銭湯を思わせる大きなのれんをかけている。		